



ガソリン携行缶の

取扱いに注意

ガソリンは、引火性・着火性の高い危険物です。消防法では、危険物の貯蔵・取り扱いについてさまざまな規制を行っています。危険物の取扱いは、危険物取扱者免状の保有者が行うか、または免状保有者の立ち合いが必要となります。

しかし、取り扱う危険物の量が少量であれば、有資格者以外の方でも取り扱うことが出来るので、危険物の危険性を理解せず取り扱いを行い事故が発生するケースがあります。

危険物を取り扱う機械器具や危険物を収納する容器に記載されている取扱説明を必ず読んで、給油方法や給油の際の注意事項、危険物の危険性を十分理解した上で危険物の取扱いを行ってください。

ガソリン携行缶から燃料タンクへの給油時の注意事項

- ・給油の際は、必ずエンジンを停止すること
- ・周囲に火気（タバコの火や電気製品なども含む。）がないことを確認する
- ・風通しのよい場所で行うこと
- ・携行缶を地面に置くなどして静電気の除去を行うこと（接地導線を使用すれば更によりよい）
- ・タンクキャップを外す前に、圧力調整ネジを緩めて内圧を解放すること
（特に夏場は気温が高く内圧が上昇し易いため、これを行わないとガソリンが噴出し引火する危険性は高くなるため注意してください）
- ・圧力調整ネジのないタイプの携行缶は、給油口の蓋がネジ式となっているので、ネジ部を徐々に緩めて内圧を解放してから給油口の蓋を取り外すこと（後に記載する取扱手順をご参照ください。）
- ・給油ノズルを確実に取り付けること

1. 圧力調整ネジありの場合

写真のタンク右上に圧力調整ネジがあります（少し見えにくいですが、給油ノズルの向こう側に蝶ネジの頭が見えます）。給油の際は、まず初めに圧力調整ネジを徐々に緩めてタンク内部の圧力を解放してください。圧力調整ネジにより内部の圧力を解放せずにタンクキャップを外すと、大量の可燃性蒸気と共にガソリンが飛び出してくる場合があります。圧力の開放後、タンクキャップを外し、給油ノズルを携行缶の給油口に取り付けてから給油してください。

※タンクに記載された注意事項を必ず読んでから使用しましょう。





2. 圧力調整ネジなしの場合

このタイプは、圧力調整ネジが単独で設けられておらず、写真の左上のタンク給油口に圧力調整ネジと同様の機能が一体となった給油口の蓋が設けられています。

※以下に圧力調整ネジが別に設けられていないタイプの取扱手順を示しています。

- 1 ネジ部を反時計回りにゆっくり回して、「シュー」という音がなくなったらネジ部を取り外します（先に平キャップを緩め、圧力が抜けたものと思って取り外すと、タンク内部の圧力で給油口からガソリンが噴水のように飛び出す場合があります）。



- 2 ネジ部を引っ張りあげると、写真のように給油ノズルがネジ部と一体になって出てきます。そのノズルを携行缶本体から、完全に抜ききってください。



- 3 抜ききったノズルと一体となったネジ部の、ノズルと反対側にある平キャップを左に回して取り外してください。



- 4 写真のように平キャップを取り外した給油ノズルを携行缶本体にあてがい、右に回して確実に締め付けてください（※確実に締め付けたことを確認してから、給油作業を行きましょう）。